

「生活の満足度・質」の指標づくりが始まる

◆豊かさの全体図を描いたり、政策運営に活用される生活者の満足度の指標

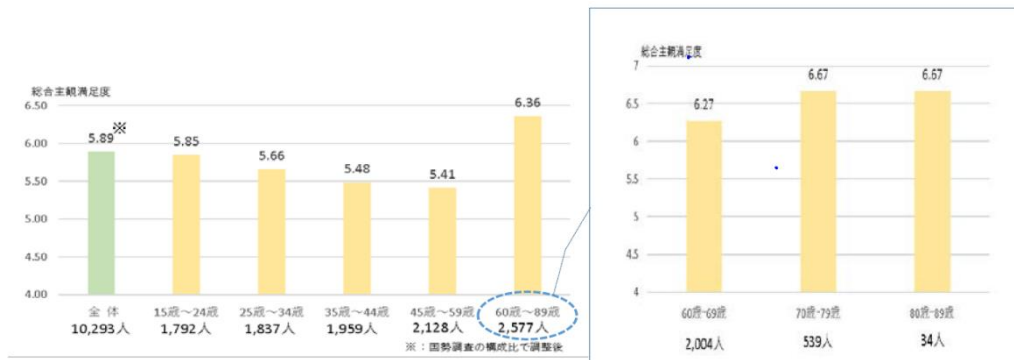
2019年5月、内閣府は日常生活の「満足度・生活の質に関する調査」の結果を発表した。18年の「骨太の方針」で生活の満足度と質（QOL）の向上のために具体的な指標の策定が決定されていて、調査はその指標づくりのために実施された。

近年、GDPなど数量的な側面だけではなく、生活者の満足度といった質的・主観的尺度による指標を社会的な課題の発見や政策運営に活かすという国際的な試みが活発化している。英国、フランス、ドイツでも指標づくりが進められていて、代表的なものとして国連が毎年発表している「世界幸福度報告書」（World Happiness Report）」の幸福度ランキングやOECDの「より良い暮らし指標」（BLI Better Life Index）などがある。

◆生活の満足度は男性より女性が高く、59歳までは年齢が上がるほど低下

調査は19年2月に全国の15歳～89歳の男女1万人を対象に実施され、生活全体や分野別の満足度や生活実態などを聞いている。満足度は「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点として評価する。満足度の平均値は5.89で、男女別では男性が5.67で女性が5.90だった。年齢別では59歳まで世代が上がるほど満足度は低くなり、45歳～59歳が5.41と最も低いのに対し、60歳以上の平均は6.36と最も高く、60代以上の満足度が高い。

【年齢別の総合主観満足度】

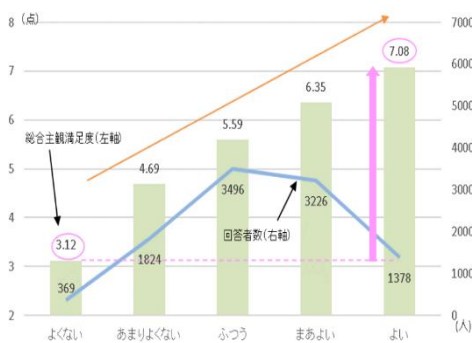


(出所)内閣府 「満足度・生活の質に関する調査」に関する第1次報告書 2019年5月24日

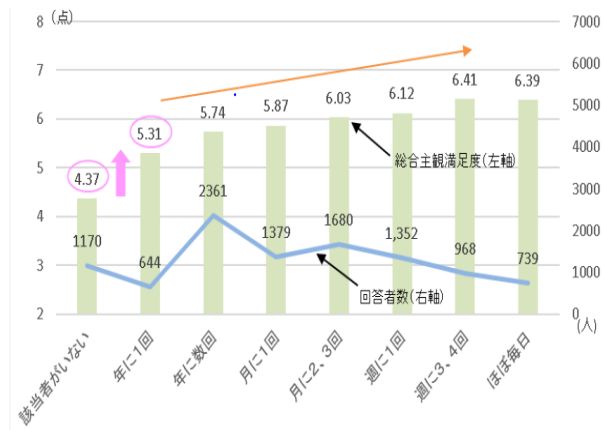
◆健康状態や社会とのつながりが満足度に影響

満足度と最も関連性が高かったのが健康状態で、満足度に大きな差が生じていることが分かった。健康状態が「よい」と回答した人の満足度の平均は7.08であるのに対し、「よくない」と回答した人は3.12と、約4ポイントの差が生じている。また、「友人との交流」、「ボランティア」、「頼れる人の人数」については、交流やボランティアの頻度が多かったり、頼れる人の人数が増加するほど満足度が高く、社会とのつながりやボランティアなど共助を担う環境が、生活の満足度との関係性が高いと分析している。このほか、趣味や生きがいなど「生活の楽しさ」の有無によって満足度が異なることも確認された。

【健康状態と総合主観満足度】



【友人との交流頻度別の総合主観満足度】



(出所)内閣府「満足度・生活の質に関する調査」に関する第1次報告書 2019年5月24日

◆今夏、満足度の指標群の試案を公表

調査では、年収や住まい、仕事、交流関係、健康状態の他、教育、政治、自然環境、安全など13の生活分野の満足度や、それぞれの分野別の具体的な重要項目などを聞いている。今回の報告書は、その一部の調査結果を分析して発表された1次報告書である。今夏に他の調査結果等を用いて分析した詳細な報告書が公表され、具体的な満足度・生活の質の指標群の試案が示される。指標はより時代に即したものとするために3年ごとに調査を行い改定される。

19年3月に国連が発表した日本の幸福度ランキングは、世界156カ国中58位だった。生活に密着した満足度の指標は、その国の文化や国民性により異なる面もあるだろう。この夏どのような指標が提示されるか注目される。 【新井佳美】